

おもな記事

- 前年同期比7・5%減の約17.9万ト/25暦年上期鉄骨需要 (2面)
- 推定鉄骨需要量は約27万ト/国土交通省6月着工統計 (5面)
- 「製作要領書」と「標準化」をテーマに/東構協を開催 (6面)
- 親子でオリジナル文鎮製作/奈良県鉄構協組ほか (7面)
- 新社長登場/金子大剛氏・中部鋼鉄(愛知) (10面)

- 「25年度CFT構造賞」を発表/新都市ハウジング協会 (17面)
- 特集/日本溶接構造専門学校 (18、26面)
- 電炉I V ②/渡辺敦・J F E条鋼社長 (27面)
- 建材I V ④/石水泰・カナックス社長 (31面)
- 吉池鉄工の工場見学を実施/長野県鉄構協組・青年部会 (36面)

40ページ



需要動向について情報交換。円内は妹尾支部長

需要動向について情報交換

需要低迷の継続を確認

全構協・中国支部会

全国鉄構工業協会の中国支部(支部長 妹尾一人・サンベルコ社長)は1日、岡山市北区のサン・ビーチOKAY A M Aで支部例会を開催し、各県の需要動向や課題について情報を交換するとともに、今後の事業計画について協議した。

中国地区の鉄骨需要については、全体的に物件数の低迷状態が継続しており、今後も年度末までは大幅な変動がないとの見方が大半を占めた。新規の見積もり件数については、小規模物件で若干の増加

傾向があるものの、需要を押し上げるほどではない。このため、改修工事や耐震補強工事、土木関連の業務受注や同業者間の連携強化などで、仕事量を確保しているファブもみられた。

物件動向では、都市部の再開発や物流倉庫などの工事計画が報告された。その中で、アメリカの関税策により停止していた自動車メーカーの設備投資工事が再開されるとの情報も挙げられた。鉄骨市況は弱気調ではあるが、全体的に大幅な値下がりはないとの報告が複数あった。

事業計画では、人づくり研修(12月3、4日、サン・ビーチOKAY A M Aで開催)の講義内容や受講者数などを確認、現状では約20名の参加を予定している。また、今年度の実施する定例会などの開催日や場所を協議した。

そのほか、全構協運営委員会が実施している業界動向調査への一層の協力を各県組合員に要請することにした。